

59 物忘れのある在宅高齢者への服薬支援に関する実態調査

福祉機器開発部 間宮郁子, 池野敬, 井上剛伸

【目的】近年、認知症高齢者を介護している家族介護者を対象として、1回あたりの服薬の薬剤数、服薬方法、服薬に要する時間、服薬時の介護負担感などに関し、経口与薬の実施・確認が負担であることが報告されている¹⁾。また高齢者の服薬回数、服薬困難なケースや嚥下障害等がある高齢者に服薬させるための工夫の一環として、嚥下障害や薬の剤数などの要因が重なることが介護の負担増につながることも指摘されている²⁾。高齢者は複数の身体的疾患を罹患していることは少なくはなく、日常的に服用すべき治療薬の種類が多くなる場合があることを背景として³⁾、今後、拒薬や嚥下障害を抱えた高齢者が増える可能性を考慮し、日々の業務の一環として介護者の負担を軽減する方策が求められる。そこで本研究では、施設に入所する高齢者の要介護度や薬の剤数などを考慮して、介護者が服薬の支援で負担に感じる要因を明らかにすることを目的とした。

【方法】物忘れのある在宅高齢者への服薬支援に関する実態調査で集積・統合したデータ (n=200) を活用し、施設の介護者が服薬の支援に関して負担に感じる要因を中心に解析した。解析に用いる調査項目としては、性別、年齢、要介護度、認知症の日常生活自立度、疾患、飲んでいる薬の種類、住まいならびに服薬に対する負担感である。なお本研究での検定および分析は、連続変数の平均値の差の検定 (t 検定)、カテゴリー変数 (カイ二乗検定) などである。

【結果】本研究対象は 27 事例であった。事例の内訳をみると、すべての事例は認知症を罹患しており、性別は女性 (n=20) が多かった。服薬に対する負担感をみたところ、何らかの理由で負担に感じていることが多かった (n=20)。

【結論】社会の高齢化が進むわが国において、介護者などが服薬支援に関して負担に感じている現状が示唆された。しかしながら、今回の解析では事例数が少ないため、一般化するには難しく、さらなる研究が求められる。

¹⁾ 今井幸充：痴呆性高齢者の在宅服薬管理と介護負担との関連について。治療 87: 433—442, 2005.

²⁾ 浜田知久馬, 高橋泰, 中島研：高齢者の服薬介助における負担度の定量解析の試み。病院薬学 21(4): 282-294, 1995.

³⁾ Mizokami F, Koide Y, Noro T, Furuta K: Polypharmacy with common diseases in hospitalized elderly patients. Am J Geriatr Pharmacother 10(2): 123-128, 2012.